

# 信賴回復家康の手腕紹介

徳川みらい学会  
静岡で講演 朝鮮通信使テーマ

徳川時代の歴史的意義を検証・発信する「徳川みらい学会」と静岡商工会議所は19日、本年度第2回講演会(静岡新聞社・静岡放送後援)を静岡市駿河区で開いた。東海地方朝鮮通信使研究会の貫井正之代表が「朝鮮通信使と家康」をテーマに講演した。貫井さん

んは、豊臣秀吉の朝鮮出兵以来、冷え切っていた両国の関係を、過去の歴史を謝罪する国書の送付や通信使の再開により改善した家康の手腕を紹介。「戦争から通信の時代へ。不幸な隣国から信賴の隣国へ変えた」と評価した。「3世紀にわたって日朝が平和外交を続け

たのは世界でも例を見ない」とし、2017年にユネスコの「世界の記憶」に登録された

意義を強調した。「現在の混乱する世界情勢において、こういう隣国関係があったということが大きな意義を持つ。この歴史の教訓を通信使から学ぶべき」と語った。(社会部・垣内健吾)



朝鮮通信使と家康をテーマに講演する貫井正之さん  
19日午後、静岡市駿河区